

星野道夫写真展「悠久の時を旅する」

神谷 直亮

久しぶりに東京都写真美術館（東京都目黒区三田）を訪れて、星野道夫が1973年から1996年まで23年間にわたり撮影した極北の大地アラスカの大自然やそこに息づく動物たちの写真をつぶさに見てきた。

「悠久の時を旅する」と題したこの写真展は、2022年11月19日から2023年1月22日まで2か月間開催されて多くのファンを魅了した。

展示会場は、「1973年、シシュマレフへ、アラスカとの出会い」「生命の不思議、極北の動物たちとの出会い」「アラスカに生きる、人々との出会い」「季節の色、自然との出会い」「森の声を聴く、神話との出会い」「新しい旅、自然と人とのかわりを求めて」の6部構成で、いろいろな局面での人々、

動物、自然との出会いをいかに大切にしてきたかがよくわかるものであった。

「1973年、シシュマレフへ、アラスカとの出会い」の章では、凍結した雪土を進むカリブーの写真が印象に残った。映像を見つめているとカリブーの軽快な足音が聞こえてくるような不思議な錯覚を覚えた。

「生命の不思議、極北の動物たちとの出会い」のコーナーでは、水草を食べるムース、雪原に現れたオオカミ、オオカミから子供

を守ろうとするジャコウウシの群れ、体温を氷点近くまで下げて死んだように冬眠するホッキョクジリスなど興味深い写真が次々に紹介されてつい見とれてしまった。

「アラスカに生きる、人々との出会い」の写真は、フェアバンクス森の中に家を建て、セスナ機を乗り回して臨んだ人生の大きな転換点の撮影である。プッシュパイロットの免許を取得したことで行動半径が広がり、人々との出会いも増え、アゴヒゲアザラシの皮で作ったボートで海に出てクジラ漁にも挑んでいる。

「季節の色、自然との出会い」では、ワイルドストロベリー、ワイルドクロッカス、川辺に咲くワタスゲ、ワスレナグサなど色とりどりの自然を季節ごとに写し取っている。最も印象に残ったのは、8月にデナリのポリクローム峠を彩ったツンドラの赤いじゅうたんである。

「森の声を聴く、神話との出会い」のコーナーは、撮影の対象が大きく変わり、ワタリガラスが刻まれたトーテムポールに興味を持っている。森の中に朽ち果てた状態のトーテムポールに霊的な力を感じたようだ。「新しい旅、自然と人との関わりを求めて」で言う「新しい旅」の意味は、自然と密接に関わりながら生きるエスキモーや極北のインディアンの古老たちを訪ねて、彼らの話に耳を傾けながらそのルーツを探った思考の旅の期間と言える。

会場には、星野道夫が愛用したカメラがガラスケース入りで2台紹介された。「フジフィルム製パノラマカメラ G617 プロフェッショナル」と「ペンタックス6x7、レンズ タクマー 105mm F2.4」である。展示されたカメラの撮影は、展示された写真と同様に禁止されていたので、別途ウェブで検索して見つけたのが添付の写真2枚である。



写真3 写真撮影ができなかったので、メルカリの出品リストで見つけた「ペンタックス6x7、レンズ タクマー 105mm」を紹介する。
(出典：jp.mercari.com)



写真4 アイコム社は、送信ボタンをひと押しするだけで世界中と同報通信できる衛星無線トランシーバー「IC-SAT100」を出展して注目を集めた。
(出典：icom.co.jp)



写真1 星野道夫が23年間にわたり撮影した極北の大地アラスカの大自然やそこに息づく動物たちの写真展が東京都写真美術館で開催された。



写真2 展示会での写真撮影が許可されなかったため、カメラのナニワの中古情報で見つけた「フジフィルム製パノラマカメラ G617 プロフェッショナル」(出典：cameranonaniwa.co.jp)

CATV 業界 3 団体が新年賀詞交歓会を開催

日本ケーブルテレビ連盟、日本 CATV 技術協会、日本ケーブルラボによる新年賀詞交歓会が、1 月 18 日にホテルニューオータニで開催され 3 団体の会員を中心に約 700 人が出席した。3 年ぶりとなる会合では、渡辺克也連盟理事長の挨拶に次いで来賓を代表して柘植芳文総務副大臣が登壇して、「CATV 業界が地域の問題解決、地域振興に欠かせない存在になっている。今年も DX を含めて益々の発展を遂げるよう期待する」とエールを送った。

衛星放送協会の新年賀詞交歓会

ケーブル業界に次いで、衛星放送協会が 1 月 23 日に、3 年ぶりとなる賀詞交歓会を明治記念館で開催した。招待先を会員の CS 放送事業者や総務省関係者に絞ったこともあり、参加者は少なめであった。登壇した小野直路会長は、「衛星放送は、メディア業界において存在感が増してきているが、動画配信サービスの台頭で経営は厳しくなっている」と述べ、「協会としては、引き続き会員各社との連携を強化しながら普及促進に尽力する」と締めくくった。行政関係者を代表して登壇した総務省情報流通行政局衛星地域放送課の安藤高徳課長は、「衛星放送番組には、昨年新たに 3 社が加わったが、今年さらに BS 右旋の 4K 化についても真剣に検討を加える」と前向きな発言を行い注目された。

第 46 回日本アカデミー賞

日本の映画に携わる映画人と映画ファンの祭典「日本アカデミー賞授賞式」が 3 月 10 日にグランドプリンス新高輪国際館パミールで開催される。これに先立って日本アカデミー賞協会は、15 部門の優秀賞を発表した。注目の優秀作品賞には、「ある男」「シン・ウルトラマン」「月の満ち欠け」「ハケンアニメ!」「流浪の月」の 5 作品が選ばれている。これに次ぐ優秀アニメーション作品賞には「劇場アニメーション犬王」

「かがみの孤城」「すすめの戸締り」「ONE PIECE FILM RED」「THE FIRST SLAM DUNK」の 5 作品が輝いた。これらの他の 13 部門の優秀賞については、日本アカデミー協会の japan-academy-prize.jp を参照したい。

なお、15 部門以外に協会特別賞というのがあり、今回はカースタント・コーディネーター兼カースタントマンの雨宮正信、アニメーション美術監督の川本征平、他 2 氏がノミネートされている。

第 27 回震災対策技術展

2 月 2 日と 3 日に、「第 27 回震災対策技術展」がパシフィコ横浜で開催された。予想に反し衛星通信関連の事業者で出展したのは、アイコム (ICOM) のみであった。同社は、送信ボタンをひと押しするだけで世界中と同報通信できる衛星無線トランスシーパー「IC-SAT100」を出展して注目を集めた。衛星電話とは異なり、送信ボタンを押すだけで同時に複数の相手に音声メッセージを送ることができる。利用するのは、Iridium 社の低軌道周回衛星ネットワークである。オプションアンテナ AH-40 との組み合わせで、車内や屋内でも衛星通信が利用できるし、Wi-Fi 機能を搭載しているので走行中もハンズフリーで通信できる。

変わったところでは、アンテナ技研が、地上設置型合成開口レーダー (GB-SAR) を出展して、地すべりや火山の地表面の動きを安全な距離から監視・観測できると説明していた。技術的に言えば、「79GHz 帯 MIMO 型 GB-SAR 装置」と言える。

一方、ALG 損害保険と日本工営は、VR による津波体験を、NAK テクノロジーズは、震災 3D コンテンツを

紹介して関心を呼んだ。

新 4K8K 衛星放送視聴可能機器台数

最後に放送サービス高度化推進協会 (A-PAB) が 1 月 26 日に発表した 2022 年 12 月末現在の新 4K8K 衛星放送視聴可能機器台数をレポートしたいと思う。この発表によれば、2022 年 12 月の出荷台数と 12 月末現在の累計台数は、次のようになっている。

	12 月分	12 月末累計
新チューナー内蔵テレビ	323,000	10,916,000
外付け新チューナー	0	259,000
新チューナー内蔵録画機	50,000	1,636,000
新チューナー内蔵 STB	47,000	2,360,000
合計	420,000	15,169,000

12 月の出荷台数が約 42 万台だったので、12 月末の累計で待望の 1,500 万台を超えた。2018 年 12 月のスタートから 4 年で達成できたことになる。A-PAB は、次の目標として 2024 年のパリ・オリンピック・パラリンピックまでに 2,500 万台を掲げている。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION
スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

ニッサン新エルグランド 4WD
5名定員
1.2m 径・自動捕捉アンテナ搭載
車高 2.2m 以下 (地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール 4m 搭載
強化サスペンション
国内 (100V) 海外 (240V) 対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.